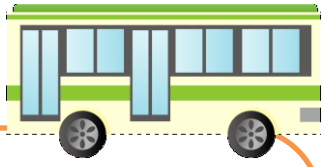
道徳だより

令和２年９月

～夢と笑顔と「ありがとう」があふれる上里東小学校～

２学期が始まり、子供たちの元気そうな顔を見ることができ、とてもうれしく感じております。学校では、これまでのように新型コロナウイルス感染防止対策に加え、気温３０度を超える日々が続いているため、授業中はもちろんのこと休み時間も外遊びを控えています。校内では、冷房による教室の温度調節やこまめな水分補給等の熱中症対策も行いながら教育活動を進めています。その中でも、子供たちは笑顔で勉強や運動に取り組んでいます。また、道徳の授業を通して、子供たちが困難な問題に対処することができる力を育成しています。教材を通して、「事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるか」を考えながら、より一層授業に取り組んでいきたいと考えます。
９月号は、４年生の道徳を紹介します。

＜４年生の授業より＞



「雨のバス停留所で」～すがすがしい心で～

★社会のマナーが必要なわけを知り、進んで守ろうとする態度を養う。よし子の心の変容について、役割演技を通して、きまりや規則や大切な理由について考え、進んで守ろうとする心情を養う。

●お話の内容●

ある雨の日、母親といっしょに外出をする主人公のよし子さん。バス停ではバスを待つ人たちがタバコ屋の軒下で雨宿りをしています。遠くにバスの姿が見えたので、よし子さんは駆け出してバス停の先頭に並びました。バスが停車し、よし子さんが乗り込もうとしたときに、お母さんがよし子さんの肩を強い力でぐいと引きました。そして何も言わずに、お母さんが並んだところまで連れていきました。お母さんはとても怖い顔をしています。バスに乗り込むとすでに席は空いていません。お母さんは黙ったまま外を見ています。そんなお母さんの横顔を見て、よし子さんは自分のしたことを考え始めました。

教師：「なぜ、お母さんは黙ったまま、窓の外をじっと見つめているのでしょう。」
児童：「いろいろ言いたいけれど、なぜ無視をしているのかその理由を考えさせたいから」
「いけないことに気づかせるため」
「一人で振り返らせて考えてもらうため」
「バスの中で説教すると他のお客さんに迷惑だから」
★でも・・・・
児童：「よし子さんは、ルールを守ってないの？」
「みんな軒下にいただけでしょ。」
「そもそもこの場面でルールってあったの？」
「雨の日のバス停にルールがないなら、よし子さんはルールを破ってないよ。」
教師：「この場面ではどんな決まりがあればいいのだろう。必要な決まりとその理由を考えてみよう」「気持ちのよい乗り方って？」
児童：「お年寄り優先」「自分よりも他人に譲る気もちで」
「ルールを破らない」「順番を守る」
「相手の気持ちを考える」
「静かに乗る」

「決まりってトラブルがなくなるようにするために必要」
規則を守ると気持ちがいいという心情主義的な捉え方ではなく、無用なトラブルから自分たちを守るために規則があることに小学４年生が気づいたのは大きいと思います。「規則やルールはすでにあるものなので、無条件に従わなければならない」という価値観からの脱却をねらってどのようなルールが必要になってくるのかということを学び合いました。

？「もし晴れたバス停留所だったら、よし子さんは同じことをしたのか？」。もし晴れていたらみんな来た順番で並んでいるかもしれませんし、そうであればよし子さんもいきなり先頭に割り込んで並んだりはしなかったはずです。果たしてこの教材で描かれているよし子さんは、子供たちの反面教師になるような「悪い子」なのでしょうか？